

【①目指す姿】

■子育て家庭が、育児に対する負担がありながらも、地域の中で安心して質の高い支援を受けることができ、「ここで子育てができてよかった」と思えるまちになっています。

政策課題指標	基準値(取得年度・年)	目標値(取得年度・年)
①子育てしやすいまちだと感じる子育て世帯の市民の割合	①43.6% (2018年度)	①46.8% (2022年度)
②出生率(人口1,000人あたり)	②6.8 (※)	②6.8 (2022年)
<b>指標の説明</b>		
①『弘前市市民意識アンケート』における「子育てしやすいまちだと思いますか」という設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した子育て世帯(就学前から高校生までの同居家族がいる世帯)の市民の割合 ②青森県保健統計年報、青森県人口動態統計、人口1,000人あたりの出生数を示したもの ※基準値の取得年は2013年～2017年の平均値		

【②現状と課題】

◇保育サービス等の利用者の状況

●少子化の進行により就学前児童は減少していますが、保護者ニーズの多様化から、各種保育サービスの利用者は年々増加しています。教育・保育を必要とする児童を保護者が安心して預けられるよう、引き続き、多様な形態の保育サービスの提供が必要とされています。

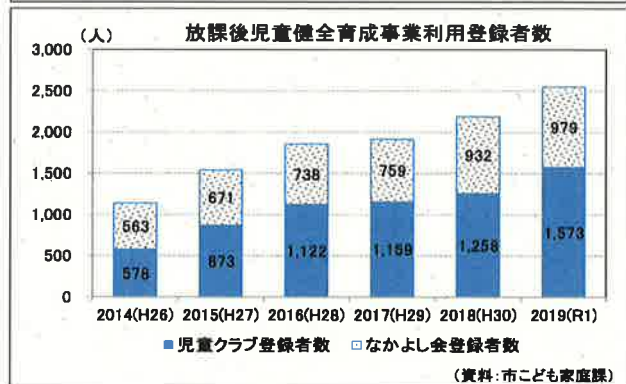
●待機児童の解消に向けて、利用定員の弾力運用を図っており、待機児童の総数は減少しています。

●今後は、待機児童の解消だけでなく、特別な支援を要する児童の保育など多様な課題への対応が求められ、保育・幼児教育の質の向上が必要となります。

●小学校の児童数は減少していますが、共働き家庭等の増加により、放課後児童健全育成事業を利用する児童は増加しています。そのため、学校施設等の活用による場所の確保や開設時間延長等に取り組み、体制の充実を図ってきました。

●現在、なかよし会と児童クラブ合わせて35箇所開設していますが、今後は、教育委員会所管の放課後子ども教室などと連携することで、さらなる活動の充実を図っていく必要があります。

〈主な統計値(定量分析)〉



〈主な市民等意見(定性分析)〉

- ・関係団体意見交換会等では、「妊娠期、就学前、そして就学後と、どのように支援していくか、必要なサービスを見極めることが大事である」との意見や、「病児病後児保育の拡充」を求める意見がありました。
- ・保育の現場からは、発達障がい等の特別な支援を要する児童が増加していることから、保育士等のキャリアアップへの支援が求められています。

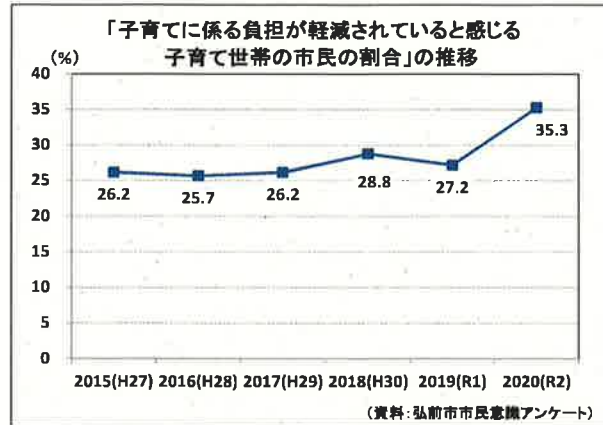
#### ◇多様なニーズに対応した子育て支援

●市が保育料をはじめとした経済的な負担の軽減施策等を実施したことにより、「子育てに係る負担が軽減されている」と感じる子育て世帯の割合は増加傾向にあり、徐々にその効果が表れてきた状況です。

●核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育ての孤立感や、精神的な負担感が増大しています。

●子育て家庭の状況に応じて多様なニーズをサービスにつなげるとともに、サービスを必要とする子育て家庭に着実に届くように、施策の周知を図っていく必要があります。併せて、経済的な支援を拡充しても、保護者が子育てには一定の負担が伴うことを理解し、納得できるよう、子育て環境の質を高めることが必要です。

#### 〈主な統計値（定量分析）〉



#### 〈主な市民等意見（定性分析）〉

各種団体との意見交換会では、「子育て家庭が必要な情報を受け取れるように工夫してほしい」「企業や地域や各種団体が連携して子育てを支援していく必要がある」などの意見が寄せられました。



駅前こどもの広場の様子

【③政策の方向性の目指す姿までに至る施策と成果の図式（ロジックモデル）】

目指す姿

施策の成果  
(アウトカム)

政策の方向性 2 地域全体で取り組む多様な子育て支援

**施策 1) 子どもの健やかな成長の応援**

【期待する成果】

・ 幼児期の教育・保育サービスの充実と就学後の児童の居場所を確保することで、仕事と子育ての両立が可能となり、家庭が安定し、子どもが健やかに成長できます。

施策成果指標	基準値(2018年度)	目標値(2022年度)
幼児教育や保育サービスが整っていると感じる子育て世帯の市民の割合	41.4%	46.0%

指標の説明

『弘前市市民意識アンケート』における「幼児教育や保育サービスが整っていると思いますか」という設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した子育て世帯（就学前から高校生までの同居家族がいる世帯）の市民の割合

**施策 2) 多様なニーズに対応した子育て支援の充実**

【期待する成果】

・ 多様化する子育て世代の抱える問題に対し、相談体制の確保や、各種の軽減・助成制度により、子育てに係る精神的・経済的な負担が軽減されます。

施策成果指標	基準値(2018年度)	目標値(2022年度)
子育てに係る負担が軽減されていると感じる子育て世帯の市民の割合	28.8%	32.0%

指標の説明

『弘前市市民意識アンケート』における「子育てに係る負担が軽減されていると思いますか」という設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した子育て世帯（就学前から高校生までの同居家族がいる世帯）の市民の割合

施策の取組  
(アウトプット)

施策を構成する計画事業  
(インプット)

【取組内容】

- ・妊娠期からの切れ目ない支援体制を整え、子育て環境の質の向上を図ります。
- ・質の高い幼児教育と保育の一体的な提供を進めるとともに、保護者ニーズに対応した各種保育サービスの充実を図ります。
- ・就学後の児童の居場所を確保するとともに、放課後子ども教室などとの連携による活動の充実を図ります。
- ・仕事と子育ての両立支援を推進するため、地域全体で子育てを応援する機運の醸成を図ります。
- ・保育士不足や特別な支援を要する児童の増加など多様化する保育現場へ対応し、保育・幼児教育の質の向上を図るため、保育士等のキャリアアップ等につなげるための取組を支援します。
- ・感染症流行期等に待機が生じている病児保育について、円滑に事業が実施できるよう、施設間での連携を図ります。

【計画事業】

- ①子育て世代包括支援センター事業（再掲）
- ②保育所運営費
- ③認定こども園等給付費
- ④特別保育事業（一時預かり、延長保育）
- ⑤障がい児保育事業
- ⑥病児病後児保育事業
- ⑦子育て短期支援事業（トワイライトステイ、ショートステイ）
- ⑧私立幼稚園教材費補助事業（再掲）
- ⑨障がい児幼児教育補助事業（再掲）
- ⑩保育士等キャリアアップ研修事業
- ⑪放課後児童健全育成事業
- ⑫児童館延長利用事業
- ⑬弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（子育て応援企業）

【取組内容】

- ・子育て中の家庭が安心して子育てに取り組むことができるように、保育料や医療費にかかる負担を軽減するとともに、経済的負担の大きい多子家族には、学校給食費についても支援します。
- ・子育てに係る不安の軽減を図るために、駅前こどもの広場や地域子育て支援センターなどで保護者同士のコミュニケーションを図ります。
- ・家庭の問題等が子どもの不利益につながらないよう相談支援を行います。
- ・若い世代に広く子育て施策を知ってもらうため、利用しやすい情報提供体制を整え、積極的に子育て支援情報を発信します。

【計画事業】

- ①保育料の軽減
- ②子ども医療費給付事業
- ③小児インフルエンザ・おたふくかぜ予防接種費用助成事業
- ④多子家族学校給食費支援事業
- ⑤母子家庭等高等職業訓練促進給付金等事業
- ⑥駅前こどもの広場運営事業
- ⑦地域子育て支援センター事業
- ⑧家庭児童相談事業
- ⑨ひろさき子育てPR事業
- ⑩養育支援訪問事業（緊急育児家事援助事業）
- ⑪地域共生社会実現サポート事業（再掲）